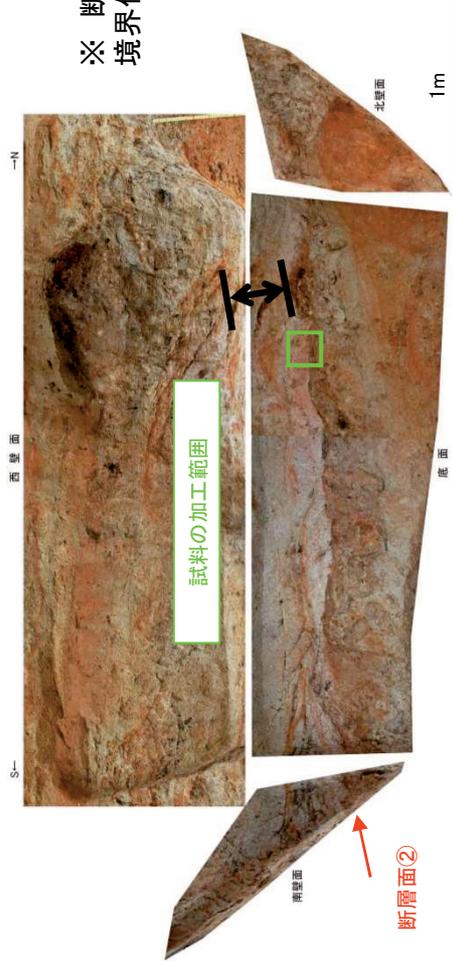


・薄片は断層面②及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

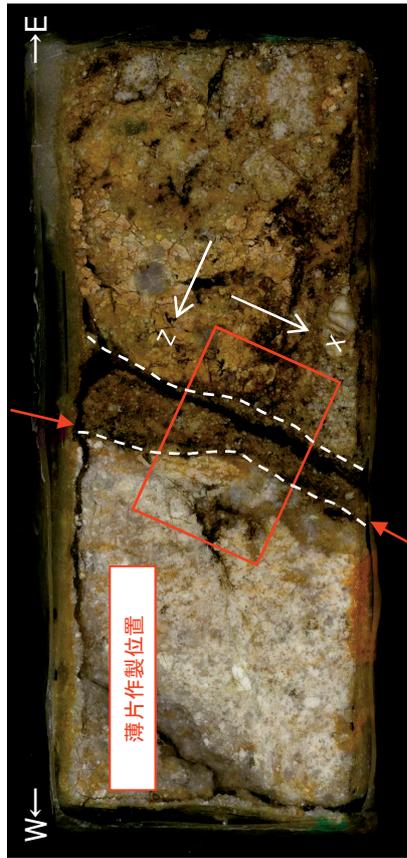
露頭写真



※断層面②は最新活動面

※ 断層ガウジは基盤岩と堆積物との境界付近に分布しており、幅を計測できない

薄片作製位置写真



断層面②  
 X: 透視方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上壁側を正とする)

凡例

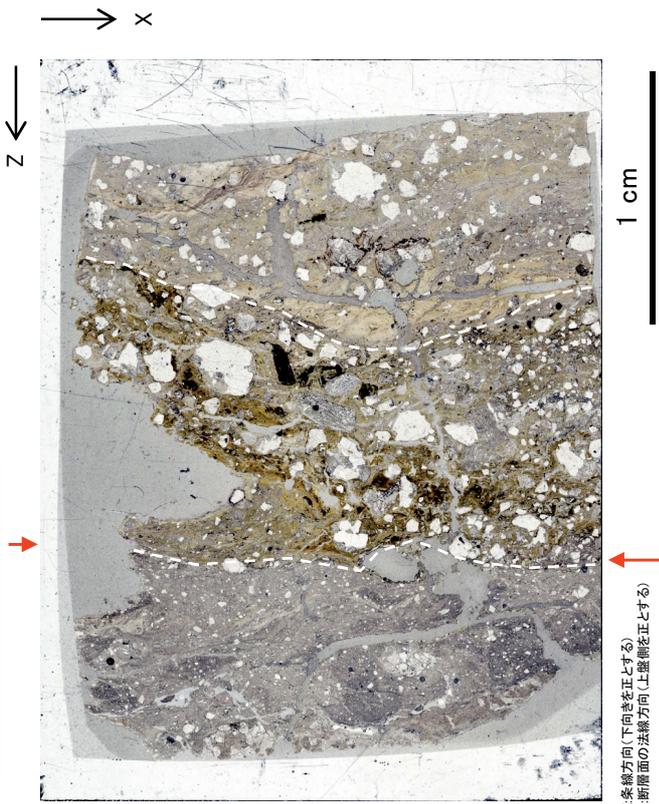
断層面

断層面②

肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※: 写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)

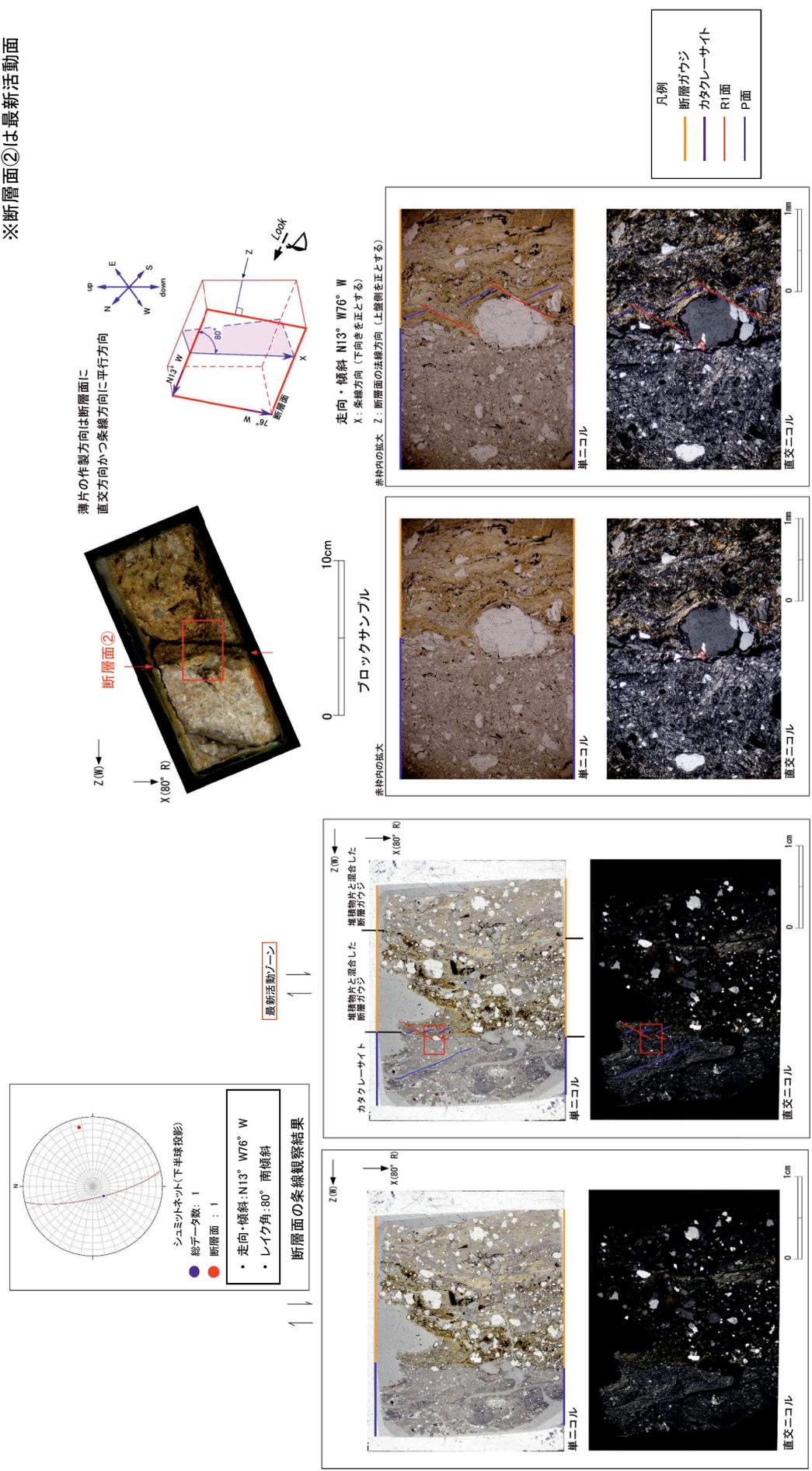


X: 透視方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上壁側を正とする)

断層面②

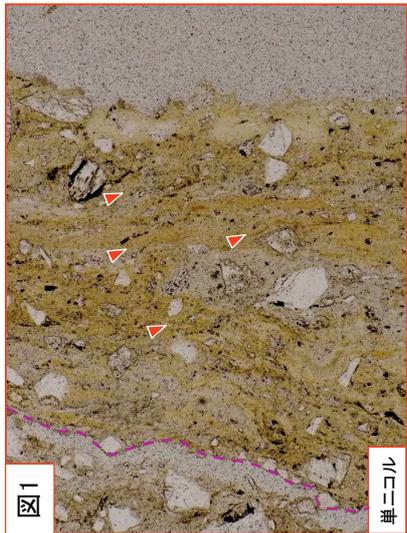
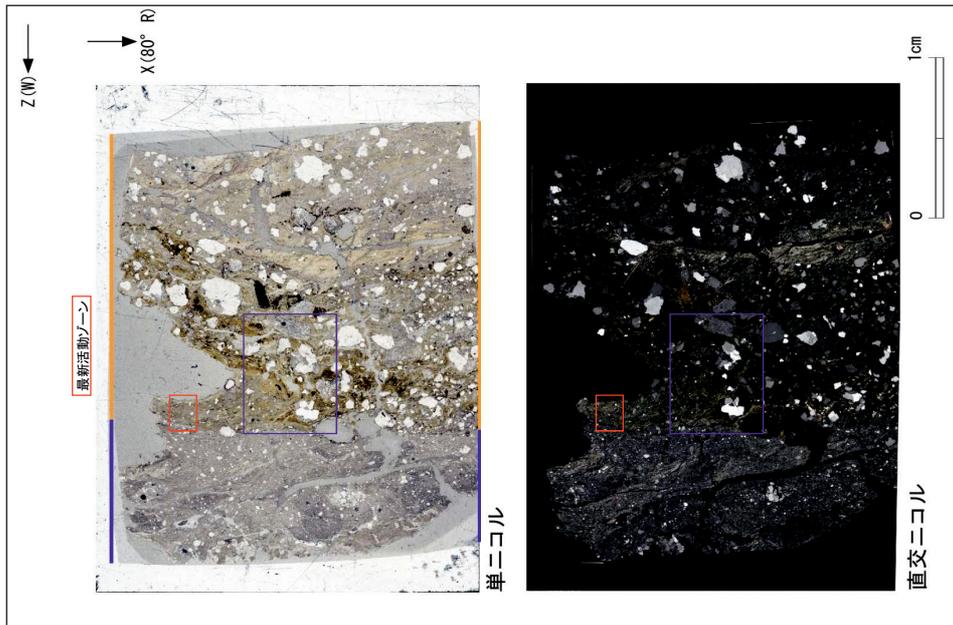
・D-1トレンチカットピットから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。  
 ➢ (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。  
 ➢ (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。  
 ➢ (断層ガウジ)粘土状部は帯状で直線的である。  
 ➢ (カタクレーサイト)角ばった堆積物片が多い。

※断層面②は最新活動面

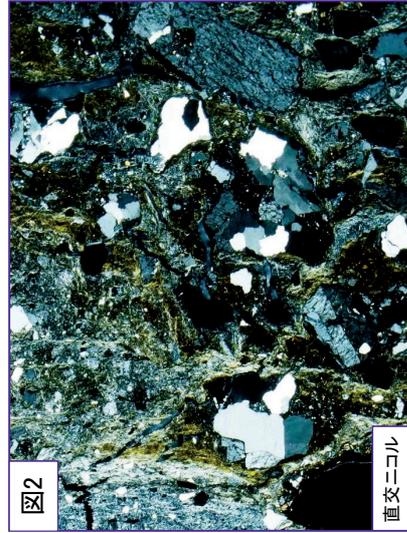
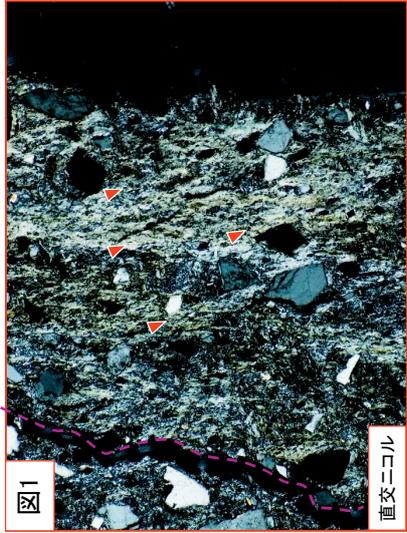
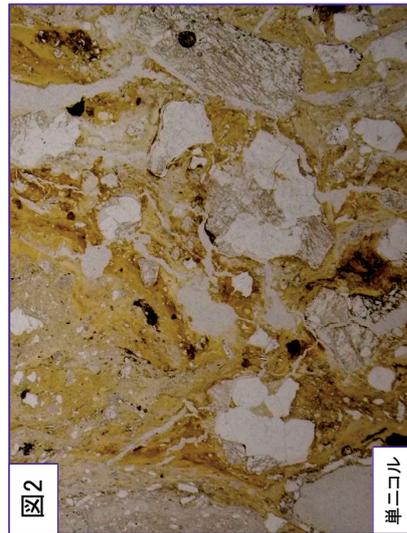


第7.4.4.404図 (4) K断層 破碎部性状 D-1トレンチLカットピット (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。(図1)
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部は帯状で直線的である。(図1)
- 角ばった堆積物片が多い。(図2)



赤矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す  
破線は帯状で直線的な範囲を示す



(肉眼観察結果 断層面②に対応するHc-1)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質であり、細粒部はせん断面に沿って断続的に連続して分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面②に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面②は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - 角ばった堆積物片が多い。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
有	-※	有

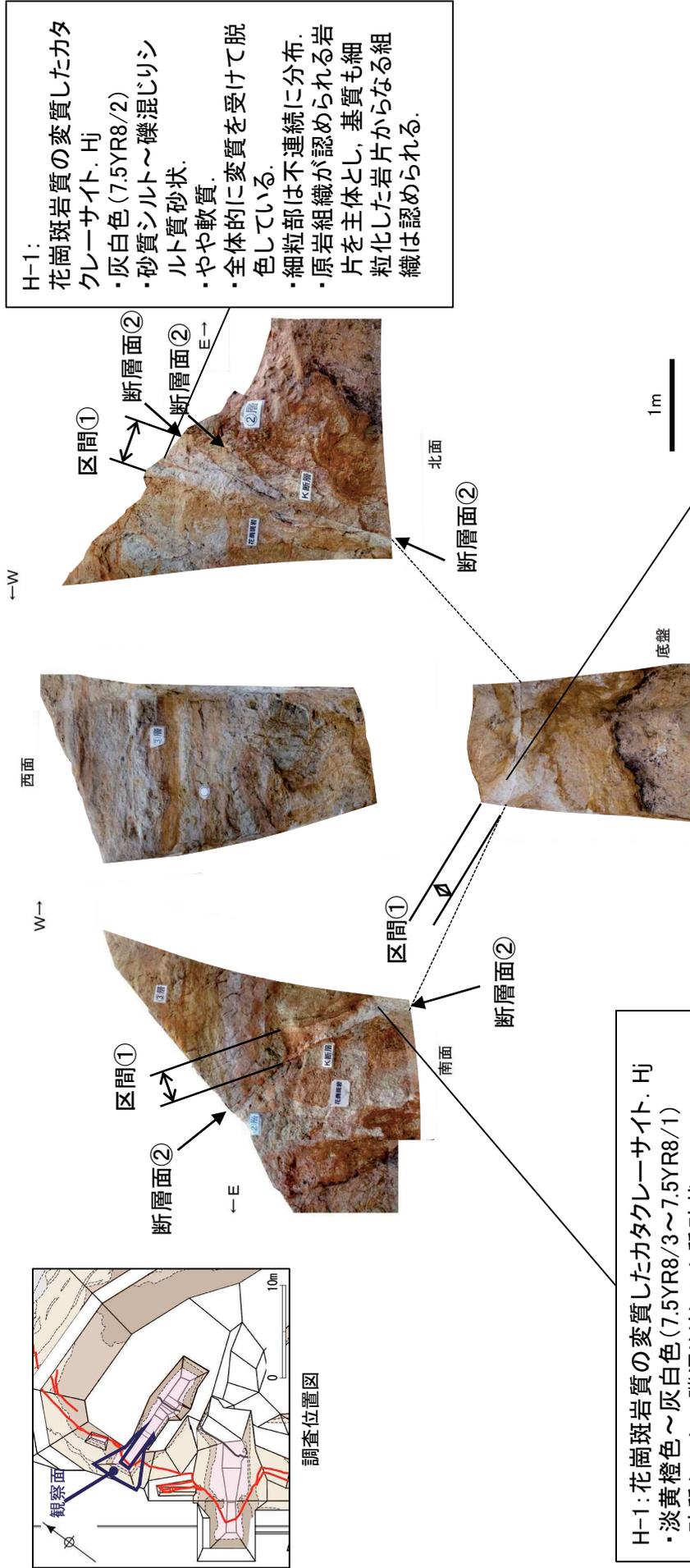
\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。

断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

※ 断層ガウジは基盤岩と堆積物との境界付近に分布しており、幅を計測できない。

・区間①に対応する「Hj」との記載については、砂質シルト状～礫混じりシルト質砂状を呈するものである。やや軟質であるが、含まれる細粒部は不連続に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

### 2-1ピット写真



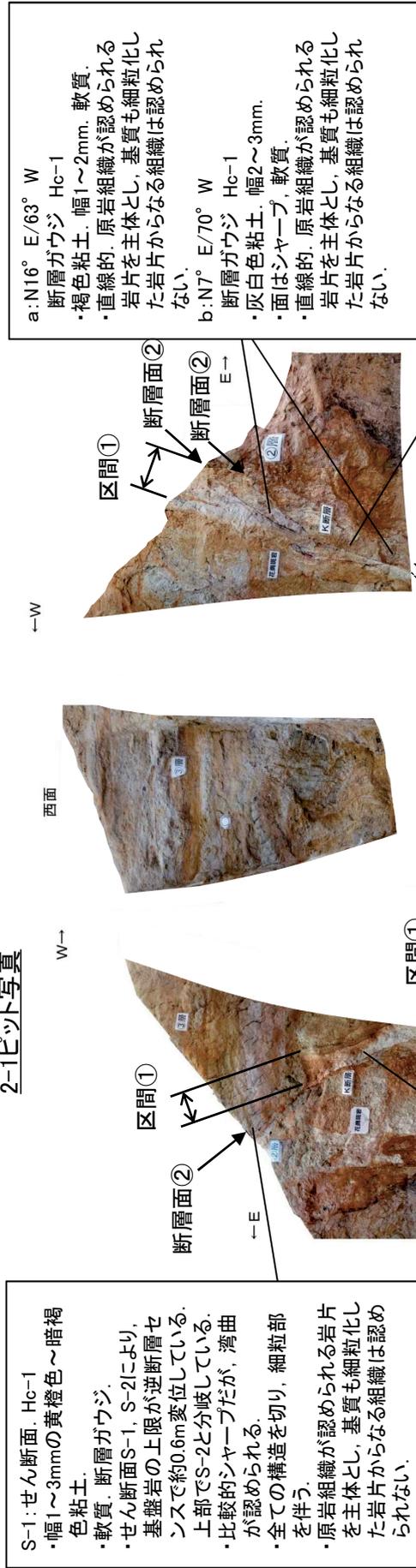
H-1:  
花崗斑岩質の変質したカタクレーサイト, Hj  
・灰白色(7.5YR8/2)  
・砂質シルト～礫混じりシルト質砂状,  
・やや軟質,  
・全体的に変質を受けて脱色している。  
・細粒部は不連続に分布。  
・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。

H-1:花崗斑岩質の変質したカタクレーサイト, Hj  
・淡黄橙色～灰白色(7.5YR8/3～7.5YR8/1)  
・砂質シルト～礫混じりシルト質砂状,  
・やや軟質, 全体的に変質を受けて脱色している。  
・細粒部は不連続に分布。  
・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。

H-1:花崗斑岩質の変質したカタクレーサイト, Hj  
・灰白色(7.5YR8/1)  
・砂質シルト～礫混じりシルト質砂状,  
・やや軟質, 全体的に変質を受けて脱色している。  
・細粒部は不連続に分布。  
・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められる。

断層面②に対応する「Hc-1」との記載については、粘土状を呈するものである。軟質であり、ピットを横断するように連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

### 2-1ピット写真



S-1: せん断面, Hc-1  
 ・幅1~3mmの黄橙色~暗褐色粘土。  
 ・軟質。断層ガウジ。  
 ・せん断面S-1, S-2により、基盤岩の上限が逆断層センスで約0.6m変位している。上部でS-2と分岐している。  
 ・比較的シャープだが、湾曲が認められる。  
 ・全ての構造を切り、細粒部を伴う。  
 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

a: N10° E/74° W 断層ガウジ Hc-1  
 ・黄橙色粘土。幅1~3mm。・軟質。条線67° R  
 ・直線的。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

a: N12° W/72° W 断層ガウジ Hc-1  
 ・灰白色粘土。幅2~3mm。軟質。  
 ・直線的。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

b: N13° E/79° W 断層ガウジ Hc-1  
 ・赤紫色粘土。幅1~4mm。軟質。  
 ・直線的。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

a: N16° E/63° W  
 断層ガウジ Hc-1  
 ・褐色粘土。幅1~2mm。軟質。  
 ・直線的。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。  
 b: N7° E/70° W  
 断層ガウジ Hc-1  
 ・灰白色粘土。幅2~3mm。  
 ・面はシャープ。軟質。  
 ・直線的。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

S-1: せん断面, Hc-1  
 ・幅1~4mmの灰白色粘土。軟質。断層ガウジ。  
 ・せん断面S-1, S-2, S-3により、基盤岩の上限が逆断層センスで約1.3m変位している。S-2, S-3に分岐している。  
 ・直線的。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。  
 S-2: せん断面。せん断面S-1, S-2, S-3により、基盤岩の上限が逆断層センスで約1.3m変位している。S-1から分岐している。  
 S-3: せん断面。Hc-1 幅1~2mmの黄橙色粘土。軟質。  
 ・断層ガウジ。せん断面S-1, S-2, S-3により、基盤岩の上限が逆断層センスで約1.3m変位している。S-1から分岐している。  
 ・直線的。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

S-1: せん断面。幅1~4mmの灰白色~赤紫色(一部、黒褐色)粘土。  
 ・代表幅: 4mm。軟質。断層ガウジ。基盤岩の花崗斑岩中に分布。  
 ・面は比較的シャープ。  
 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は認められない。

